オープニングメッセージ

スクリプター・脚本家
映画祭顧問
白鳥 あかね
しらとりあかね

「いつまでも 若々しく」

あきた十文字映画祭が、何故一年中で一番寒い季節に開催されるのか？実行委員の小川さんに、たずねた事があります。その答えは？

「雪が、一番ごちそうだからです。」

毎年、積もる雪を踏みしめて訪れる十文字。東京生まれ東京育ちの私にとって、かげがえのない心のふるさとになりました。

西も東もわからずに映画の世界に飛び込んで半世紀をとうに過ぎ、いまだに映画をこよなく愛する人たちと出会いを求めて、この地に通い続けて25年を過ぎました。

日本の映画界もメジャーの存在感は薄れ、大きく様変りしようとしています。心ある人々の手によって作られる志の高い映画こそが生き延び、次の世代に受け継がれて行くのだという事を、私は固く信じたいと思います。

私事になりますが、昨秋、初孫が誕生しました。ひとの一生の中で、これ程猛スピードで成長する時期はないだろうと、確信させられる毎日です。

いつか一緒に、十文字を訪れる日が来るまで、皆さん頑張ってください！

プロフィール

(協)日本シナリオ作家協会常務理事。脚本家・スクリプターとして50年以上映画界で活躍。元日活在籍。新藤兼人監督、神代辰巳監督、今村昌平監督、根岸吉太郎監督らの作品に携わる。『隠し妻』、『鍵』、『折り梅』などの脚本を執筆。

2004年文化庁映画功労賞、2010年川崎市文化賞を受賞。あきた十文字映画祭顧問、川崎市アートセンター映画・映像事業企画・作品選定委員、東京フィルメックス(2010年)審査員。

『脇役物語』(緒形篤監督と共作)では、キャスティングプロデューサーも兼任。2011年、KAWASAKIしんゆり映画祭代表に就任。2014年には「スクリプターはストリッパーではありません」を出版。同年、日本アカデミー賞特別賞を受賞。

脚本家・監督・映画祭顧問
日本映画大学教授
荒井　晴彦
あらいはるひこ

アニメの『君の名は。』の興収が２００億円を越えて、AERAが『黄金期から低迷へ　そして日本映画は再び絶頂期へ』という特集をやっていた。商売がうまく行ったという特集だ。国会は改憲派が２／３を占め、映画館はオタクに乗っ取られてしまった。『君の名は。』を観て泣いている人は、映画史上の名作を観たことないんだろうなと思った。それでも、『この世界の片隅で』が入ってると聞き、真っ当な客もいるのかと思って観に行った。相も変わらぬ戦争＝被害映画、これはダメだと思った。庶民に戦争責任は無いのか。戦争で手を失った田中裕子が天皇の戦争責任を言う映画があり、戦時下の日常を描いた実写映画があり、加害を描いた映画もあったのに、もう忘れたのか。いま、客が一番悪い。

プロフィール

1947年東京都生まれ。季刊誌『映画芸術』編集・発行人。若松プロの助監督を経て、1977年『新宿乱れ街 いくまで待って』で脚本家としてデビュー。キネマ旬報脚本賞を『Wの悲劇』(澤井信一郎監督、1984)、『リボルバー』(藤田敏八監督、1988)、『ヴァイブレータ』(廣木隆一監督、2003)、『大鹿村騒動記』(阪本順治監督、2011)、『共喰い』(青山真治監督、2013)で受賞。橋本忍に並んで最多受賞となる。他、『赫い髪の女』(神代辰巳監督、1979)、『遠雷』(根岸吉太郎監督、1981)、『海を感じる時』(安藤尋監督、2014)、『さよなら歌舞伎町』(廣木隆一監督、2015)など多数の脚本を手がける。『身も心も』(1997)で初監督。18年振りの監督作『この国の空』(2015)で読売文学賞戯曲・シナリオ賞受賞。2017年に『幼な子われらに生まれ』(監督　三島有紀子)が公開予定。

俳　優
映画祭顧問
永島　敏行
ながしまとしゆき

26回目の映画祭、当たり前ですが26年の歳月が流れたのですね。十文字映画祭を立ち上げる為に十文字を訪れたのが30代半ば、それから米作りをしたり、秋田で仕事を持つようになり26年間毎年、イヤ、今では毎月秋田に通い続けて来ました。

秋田は私にとって飽きない魅力がある。自然、食事、人、文化。

そんな秋田を描く映画を十文字映画祭から生み出せたら！

それも若い力で！

私の夢です。

プロフィール

1956年千葉県生まれ。1977年「ドカベン」で映画デビュー。翌年「サード」「事件」「帰らざる日々」と次々に主演し同年の新人賞を総なめ。81年「遠雷」では根岸吉太郎監督と共にブルーリボン賞受賞。91年の映画祭発足以降はアドバイザーとして映画祭を支える。都市と地方の橋渡し役をライフワークとしている。03年十文字町特別功労賞受賞。最近の主な出演映画は04年「透光の樹」09年「わたし出すわ」10年「ゴールデンスランバー」11年「HESOMORI -ヘソモリ-」「花子の日記ービーフのキョーフ物語ー」13年「真夏の方程式」15年 映画「海難1890」、「愛を語れば変態ですか」等。秋田テレビ「永島敏行の農業バンザイ！すごいぞ秋田の農業」にレギュラー出演中。

2013年より秋田県立大学客員教授。

映画評論家・プロデューサー
映画祭顧問
寺脇　研
てらわきけん

映画祭事務局から「(荒井さんと違い)優しい原稿を」との要望があったけど、それは無理だね。十文字でも辛うじて上映してもらった『バット・オンリー・ラヴ』は苦戦の連続。某アニメが200億興行収入をあげる傍らで、その1万分の1！200万の興収がやっとです。映画界の貧富の格差は、社会全体以上に広がっています。こんな状態で自主映画から新しい才能が生まれるだろうか？せめて十文字が彼らを応援する場になりますように。

プロフィール

1952年福岡県生まれ。高校在学中から「キネマ旬報」の「読者の映画評」に投稿。東京大学法学部在学中から『キネマ旬報』「読者の映画評」欄の常連だった。卒業後、文部省に入省。文部科学省在職時代から、日本映画映像文化振興センター副理事長に就任している。退官後の2007年から京都造形芸術大学芸術学部映画学科教授。2011年からは同大学芸術学部マンガ学科教授。プロデューサーとして「戦争と一人の女」(13)「バット・オンリー・ラヴ」(15)を製作。著書に、『それでも、ゆとり教育は間違っていない』『韓国映画ベスト100』『官僚批判』『ロマンポルノの時代』『文部科学省「三流官庁」の知られざる素顔』などがある。

監督
東北芸術工科大学
映像学科長
林　海象（はやし かいぞう）

「あきた十文字映画祭によせて」

今年も「あきた十文字映画祭 」によんで頂き、心から感謝致します。東北芸術工科大学 映像学科の作品群と、それを監督した学生たちと参ります。若者たちの作りたての映画をお楽しみください。

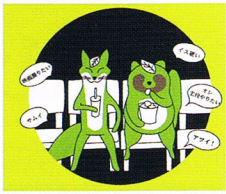
プロフィール

1985年「夢みるように眠りたい」で脚本・監督デビュー。その後「私立探偵 濱マイクシリーズ (三部作)」、「探偵事務所5シリーズ(映画2本 短編48本)など探偵映画を多数監督する。2007年京都造形芸術大学に映画学科を設立。初代学科長となる。2014年東北芸術工科大学 映像学科に移籍。根岸吉太郎学長から学科長を引き継ぎ現在に至る。最新作の「BOLT」三部作は今年公開予定。

祝！開催
十文字映画祭を応援する……

待っていました！十文字映画祭
継続は力なり。いつまでも応援します。
TOM
株式会社トータルオフィスマネージメント
TEL (0182)42-4030
ホームページ http://www.toming.co.jp

各種折詰/皿盛/仕出し
ごとう
後藤龍男
十文字町本町22
TEL 0182-42-0248
42-2339(自宅)



当店の部分を切り取ってご来店すると
有効期限 平成29年3月31日まで
ぎょうざ無料（一人前）
●お一人様一枚に限らせていただきます
〒019-0522 十文字町梨木字西上51-5
TEL・FAX 0182(42)0342
営業時間 11:00～25:00 年中無休
ラーメン めん丸 十文字店

十割そば 正五郎（ランチ営業） ☎(0182)42-0099
ゆより亭 柿子茶 十文字店 ☎(0182)42-4477
スポーツバー＆カラオケ Re:MIX ☎(0182)42-4477
予約センター（午後4時まで）☎(0182)24-1400 にて受け付けます。

http://www.akita-jcf.net/
十文字映画祭 検索 Click!